

平成28年度第3回南三陸町環境審議会 会議録

- 1 日 時 平成28年11月9日（水） 午後6時から午後8時まで
- 2 場 所 ベイサイドアリーナ 会議室
- 3 出席者
 - (1) 南三陸町環境審議会委員（11名）
鈴木卓也委員、阿部拓三委員、小野寺瑞穂委員、佐々木正司委員、高橋長晴委員
佐藤俊光委員、阿部美津雄委員、齋藤左恵子委員、佐藤ふく子委員、工藤真弓委員
小野政道委員
 - (2) 事務局
南三陸町環境対策課
小山雅彦、星力、山内香、森本裕之、佐々木良輔
 - (3) 欠席者（4名）
星一敏委員、佐藤太一委員、小野弘喜委員、西城正記委員
 - (4) 傍聴者
なし
- 4 委員改選に伴う委嘱状交付
- 5 町長あいさつ
- 6 委員及び事務局紹介
- 7 会長及び副会長専任
会長に高橋長晴委員、副会長に佐藤俊光委員を選任。
- 8 会長あいさつ
- 9 会議成立の確認
南三陸町環境基本条例第28条第2項の規定により、委員の過半数が出席していることから会議が成立することを確認。

10 審議事項

(1) 環境基本計画に関する今後の進行管理及び調査について

①事務局より資料の説明

環境基本計画策定時に「町・事業者・町民がどの程度取り組めばよいのか読み取れない。読み取りやすくするために数値目標を設定してはどうか」との意見があった。現在復興途上であり、確定した数値が出せないのが現状であるため、5年後目標設定をするために、現状を話し合いながら審議会を行う。今回は、町が行う事業の進行管理の方法を話し合っていた。

②質疑応答

- 委員 5年後に数値目標を設定することだが、52事業すべてに数値目標を設定するのは正直無理である。事業が大きく5つに分かれているのであれば、代表的なものを決め目標を定めてはどうか。
- 事務局 代表的な事業をピックアップということだが、数字が出せる事業とそうではない事業がある。町・事業者・町民の取組が数字で表せるものを審議会で話し合い選んでもらうのも1つの選択肢であると考えている。
- 会長 一番議論され、直近で影響があるものは、自然環境と生活環境だと思う。高台や下水についてなど他にはないか。
- 委員 下水道の整備はどのような状態なのか。
下水道で処理するのか浄化槽で処理を行うのか。
- 事務局 下水道が残っている伊里前地区は、そちらで処理を行い、新たに造成される防集団地は浄化槽で処理を行う。
- 委員 震災前の生活雑排水は、新井田川に流れていたが、高台の造成に伴い、分散され平磯に流れると思う。
前と排水先が違うので水質の数値や影響が気になるがどうか。
- 事務局 河川、海域の水質検査を年4回行っている。排水先の変更に伴う水質検査については、海域の採水箇所を変更し確認することは可能である。
- 委員 水質検査について、造成により水が濁り水質の成分が違うと思うが何と比較すればよいのか。
- 事務局 南三陸町環境白書にて3カ年の数値をあげている。だが、造成工事のため土壌の成分が含まれ比較対象にならない部分もあるのが現状である。
5年後であれば造成も落ち着き生活環境も良くなると思うので、31年度の数値を基本数値として水質を比較していくという方法もある。
- 委員 確かにそのようなことがあると思う。だが、目標は理想的なものにすべきではないか。例えば震災前のデータを10年後の目標として高い目標にした方がよい。理想的な形を見据えて目標設定するのも1つである。
- 事務局 震災前の数値があるため、震災前の数値を理想数値とし、工夫しながら目標数値を設定するのも案である。
水質については、環境基準が決まっているため、最低でも基準を維持し

ていくことが必要である。

- 委員 日常生活において目標設定する必要があると考える。
例えば、ごみ出しが週2回のうち一度に出すごみの数を1～2袋出しているものを来年は1～1.5袋に減らすなど町民が実感できる目標を設定した方がよいと思う。
- 事務局 ごみについては、一般廃棄物処理計画を策定中である。
ごみの内容について広報等でも何度か周知しているので、目標設定に具体的な数値を出すことは可能である。
- 委員 野菜などは梱包されて販売されているため、買い物袋のごみが多いと思う。ごみの分別の際に、リサイクルに回せるようなものがあるとよい。
- 事務局 ごみの数量については公表されているのか。
月単位でまとめており、広報にも掲載している。また、リサイクル等についても周知の必要があると思う。
- 事務局 雑紙だけでもかなりあると思うが何か行っているか。
広報に折り込み等で周知しているが、箱ティッシュの箱のリサイクル方法をさらに広報に載せたりしていきたい。
- 委員 事業所の紙類はシュレッダーを使う等、工夫によりかなり減らせると思う。
- 委員会 長 ごみ集積所にいつでもリサイクルに出せるところがあるとよい。
現在、地区で紙類や廃油、卵の殻、その他を分類し別のものにするというような取り組みをする予定である。うまくいけばかなりのごみが削減できると思う。
- 事務局 委員 今回の審議会のゴールは何か。
今回は、進行管理をするための方法を話し合ってもらうこととなっている。先ほどの代表的なものをピックアップするというように方法を出していくものである。
- 事務局 長 ごみ等は外せないと思う。河川については載せた方がよいか。
載せるのであれば、毎年測っているものであるため数値目標の設定は可能である。
- 委員会 長 公表しなくても、環境審議会委員が把握すればよいと思う。
委員 現在の海の状況を数値としてとっておき5年～10年後に活かせばよいと思う。先ほど、他の委員が言ったごみ袋等については海の環境に直結するため対策をしなければならない。
- 事務局 長 今回の資料を次回までに目を通していき、代表的なものをピックアップしていただき、進行調査について話していきたい。
- 事務局 委員 町としてデータとして出せるものは何か。
環境政策係については数値を出せる。他課にわたるものもあるため数値が出せるのかは不明である。まず、審議会委員にピックアップしてもら

い、こちらで数字が出せるのかを確認した方が効率がよいと思われる。
担当課を呼ぶことも可能である。

そのため、次回まで資料を見てもらいピックアップしてきてほしい。

委員 この先南三陸町をどのようにしたいのかを考えたいので会議をした方がよい。

委員 自分たちの生活で、今懸念されているものを52事業の中のどの分野に該当するかを話し、複数の事業にまたがっている問題をピックアップする形でもよいと思う。

委員 わかめの茎については、本来はごみとして処分するが、ウニのあるところに放流することによりえさとして処理できる。

委員 今回話には出てこなかったが5. 環境教育に力を入れるのも地域効果が期待できるものである。教育委員会と協力をし、次世代の子どもたちに環境教育を徹底させることが個人的に重要だと思う。

委員 南三陸町の環境の現状を把握するために、環境審議会委員の中に学校の職員を入れることも検討してほしい。

会長 本日は、大変有意義な話し合いであった。まとめをお願いします。

事務局 本日の審議会をまとめると、
・環境基本計画に記載がある52事業すべてに数値目標を設定するのは困難である。そのため、環境に関する身近な問題を話し合い、その意見を52事業にあてはめていく。あてはめた事業の中から数値目標となりうる事業をピックアップし、数値目標を決める。
・次回の審議会までに、各々身近な問題点を検討してくる。
ということでしょうか。

委員 (一同了承)

11 その他

委員 諮問の内容で調査とは何か。

事務局 条例の文言中に調査とあること。また、分野ごとで他課を呼んで話を聞く。また、調査した内容を報告してもらおう等それらすべてを含めて調査としている。

委員 ラムサール条約についてはどのような状態なのか。

委員 広報にて、時間と場所を掲載し各行政区を回っている。

直接的に町民にかかわるところがあまりないためなのか、集まりは悪いのが現状である。

ラムサール条約とは、水鳥と湿地（海藻群落含む）を保全するためのものである。もともと平成22年度時点では、藻場が潜在候補地としてあげられていたが震災の影響で、現在行うということになった。内容としては、ウニ、アワビのえさになるマコンブやアラメが合流する

ところであり、豊かな資源を保全するためである。また、コクガンと言われる世界で5000～9000匹の絶滅危惧種が冬に100～200匹が湿地帯に来ることがわかっている。コクガンは藻場がないと生息できないため、海藻藻場の保全とコクガンを守ることにつながるものである。

条約を締結するためには、地域の合意が必要となる。来月18日にはラムサール条約のシンポジウムを開催する。今年度3月に申請をし、2018年に登録を目指している。南三陸の自然を国際的にアピールするものである。

- 事務局 今後の審議会の開催時間はどのようにしたらよいか。
前は、午後2時～4時ぐらいまでであったがどうか。
- 委員一同 冬期ということを考慮し、日中でよいのではないか。
- 事務局 では、今年度は日中の開催とする。
次回の開催はいつぐらいがよいか。
- 委員 あまり期間を空けないように12月の始めがよいと思う。
- 事務局 日程を確認し、12月の上旬に開催したいと思う。

12 閉会